

## 1995年北海道東方沖地震津波の痕跡高<sup>\*)</sup>

調査要領はチリ津波時にまとめられた踏査速報に述べられているものに準拠した。これは、東京大学地震研究所大地震対策委員会の「大地震現地調査の手引き」とほぼ同一の内容であるから参照されたい。

- 津波痕跡資料の信頼度はA, B, C, Dの4段階に分けられている。すなわち、
- A ; 信頼度大. 痕跡が明瞭で、測定誤差が最も小さなもの。
  - B ; 信頼度中. 痕跡は不明だが、聞込みや周囲の状況から信頼ある水位を知ることができ、測定誤差が小さなもの。
  - C ; 信頼度小. 砂浜などで異常に波が這上がったと思われるもの、海辺より離れていて測量誤差が大きいもの。
  - D ; 信頼度極小. 高潮、台風などの影響で痕跡が重複し、不明瞭なもの、等

である。

調査は、北海道、東北地区で行った。実際の調査者氏名は痕跡表にそれぞれ記入してある。各調査者の報告による痕跡高とその分布図を2万5千分の1の図面上に再作図したものを以下の図-5～図-121に示し、痕跡高はT, P. (センチメートル)で記した。図-1から図-4までは、各図がどの位置にあるかを示すものであり、北より順次番号を付しておいた。この番号が図-5以降の図面中に原則として左肩に【 】として与えたものと対応している。

なお、基準検潮所は下記の通り略記する。

- 網 : 網走検潮所
- 花 : 花咲 "
- 釧 : 釧路 "
- 浦 : 浦河 "

\*) 文責 首藤伸夫 (東北大学教授, 工学部)  
 作図・作表 卯花政孝 (東北大学技官, 工学部)